

一般社団法人日本顎関節学会 2020年度事業報告書

I. 目的（定款第3条）

本法人は、会員相互並びに国内外の関連団体との交流を深め、顎関節学に関する基礎的及び臨床的研究、教育及び診療についての会員の能力向上を図るとともに、それにより地域社会における口腔の健康の維持と向上に貢献し、もって国民の健康と福祉の増進に寄与することを会員共通の目的として、次の事業を行った。

- (1) 学術大会の開催に関する事業
- (2) 研究発表会、講演会、講習会及び教育研修会などの開催
- (3) 機関誌、及びその他の出版物の刊行
- (4) 顎関節疾患、特に顎関節症の治療に関する専門医等の各種資格認定事業
- (5) 顎関節疾患、特に顎関節症の治療に関する研修機関等および研修制度の整備
- (6) 顎関節に関する研究者並びに医療・保健・福祉事業者の教育及び育成事業
- (7) 顎関節疾患に関する調査並びに合同研究
- (8) 国内外の顎関節治療関連団体との連携及び交流
- (9) 顎関節疾患に関する医療・保健・福祉情報の発信並びに啓発事業
- (10) 研究の奨励及び助成並びに研究業績の表彰
- (11) その他本法人の目的を達成するために必要な事業

II. 学術大会の開催に関する事業（定款第3条1項）

1. 第33回学術大会

- 1) 会期：2020年7月3日（金）～17日（金）
- 2) 形式：誌上&web開催
- 3) 大会長：矢谷博文（大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 クラウンブリッジ補綴学分野）
- 4) 参加者：総計 651名
- 5) メインテーマ：「挑戦する，変化する，進歩する」
- 6) 演題：
 - ①企画演題
 - 海外招請講演 1 題
 - シンポジウム 6 題
 - 教育講演 2 題
 - イブニングセミナー 5 題
 - 学術奨励賞受賞講演 1 題
 - 新認定医取得のためのセミナー 1 題
 - ②一般演題
 - 口演 9 題
 - ポスター 45 題

●特別講演

座長：古谷野潔

「Dental Sleep Medicine : a discipline beyond obstructive sleep apnea」
Frank Lobbezoo

●メインシンポジウム

「日本顎関節学会の顎関節症診断基準 2019」

座長：矢谷博文

1. 咀嚼筋痛障害・顎関節痛障害 有馬太郎
2. 顎関節円板障害・変形性顎関節症 依田哲也
3. 画像診断 小林馨

●シンポジウム 1

「顎関節円板障害・変形性顎関節症に対する運動療法」

座長：佐々木啓一

1. 顎関節症における運動療法の基本的な考え方 島田 淳
2. 術者が行う運動療法の考え方と手技 田口 望
3. 術者の指示で患者が行う運動療法の考え方と手技 儀武啓幸

●シンポジウム 2

「顎関節症治療におけるセルフケアをマスターする！

～セルフケアの基本・臨床・チームアプローチ～」

座長：島田 淳、澁谷智明

1. 顎関節症の治療におけるセルフケアの潮流を知る
～運動器障害の治療における、セルフケアの現在の考え方～ 羽毛田 匡
2. セルフケアの基本～理学療法士が行っている運動器障害への対応～ 古泉貴章
3. セルフケアを顎関節症治療に生かす～エビデンスを臨床にどう生かすか～ 永田和裕
4. セルフケアを歯科衛生士と行う～チームアプローチで治す顎関節症～ 佐藤文明

●シンポジウム 3

「顎関節疾患罹患により変化した下顎位に対する対応」 座長：松香芳三

1. 顎関節症に関連する病態と下顎位、咬合の関係 小見山道
2. 非復位性円板前方転位（クローズドロック）に継発する前歯部開咬への臨床的アプローチ
山口泰彦
3. 顎関節に関連する病態で下顎位が変化した場合の口腔外科的対応 川上哲司

●シンポジウム 4

「咀嚼筋痛障害—わかっていること、わかっていないこと、それからの治療戦略—」

座長：築山能大

1. 咀嚼筋痛の病態生理と治療戦略—安静から運動へ— 原 節宏
2. 咀嚼筋痛障害への多面的多角的アプローチ 島田明子
3. 慢性筋痛の病態メカニズムとリハ治療戦略 —運動療法等 first-line 治療のポテンシャル—
松原貴子

●シンポジウム 5

「顎関節強直症に対する治療の現状と展望」 座長：高橋 哲

1. 顎関節強直症に対する間口形成と脂肪移植 小木信美
2. 顎関節強直症に対する外科的治療法の問題点とその解決策を考える 野上晋之介
3. 顎関節強直症に対する治療戦略 濱田良樹

●教育講演 1

座長：馬場一美

「睡眠時ブラキシズムの診断と管理における歯科医師の役割」 加藤隆史

●教育講演 2

座長：杉崎正志

「臨床データの統計解析—多変量・クラスタリング・非線形解析の実践—」 新谷 歩

●イブニングセミナー

「若手臨床医に向けて～顎関節疾患に対する治療戦略と臨床・基礎研究の最前線～」

座長：五十嵐千浪

1. リウマチ性顎関節炎による二次性開口へのアプローチ 熊谷賢一
2. 顎関節症のテーラーメイド医療に向けた MRI の応用—変形性顎関節症の遺伝的リスク因子の探索—
高岡亮太
3. 顎関節症に対する矯正歯科の役割～臨床・研究の両面から～ 廣瀬尚人
4. 顎関節イメージング update 対応 松本邦史
5. 顎関節疾患に対する顎関節開放手術の検討 池田順行

●令和元年度覚道健治賞（学術奨励賞最優秀賞）受賞講演

座長：佐々木啓一

「若年者における咀嚼筋□・□膜過形成症疑い者に関する縦断的疫学調査」 林 直樹

●新認定医取得のためのセミナー

「新認定医取得の道」 塚原宏泰

Ⅲ. 研究発表会、講演会、講習会及び教育研修会などの開催（定款第3条2項）

1. 第50回学術講演会

開催日：2020年11月8日（日）

開催形式：web開催（zoom）

講師、講演内容

【顎関節症の保存療法マスターコース】

パート1：顎関節症の診断基準（2019）と患者教育

講師：小見山 道

パート2：画像による顎関節症の診断と病態説明

講師：五十嵐千浪

パート3：顎関節症の管理（TCHを中心に）

講師：西山 暁

パート4：顎関節症の理学療法と薬物療法

講師：依田哲也

パート5：顎関節症の口腔内装置による治療

講師：鱒見進一

参加者数：166名（会員156名、非会員6名、研修医4名）

2. 第51回学術講演会

開催日：2021年3月28日（日）

開催形式：web開催（zoom）

講師、講演内容：

【顎関節症の鑑別診断コース –それ本当に顎関節症ですか？–】

（顎関節症との鑑別を要する各種疾患についての詳細解説）

パート1：顎関節症の病態分類と診断基準

講師：石垣尚一

パート2：画像検査による顎関節症の鑑別診断

講師：松本邦史

パート3：顎関節症と鑑別が必要な疾患①（有痛疾患）

講師：村岡 渡

パート4：顎関節症と鑑別が必要な疾患②（口腔外科疾患）

講師：濱田良樹

パート5：顎関節症と鑑別が必要な疾患③（精神疾患）

講師：小見山 道

参加者数：189名（会員174名、非会員7名、研修医6名、暫定指導医2名）

IV. 機関誌、及びその他の出版物の刊行（定款第3条3項）

- 日本顎関節学会雑誌：4回発行（うち1回は大会抄録集）
 - 第32巻特別号（2020年6月発行）
 - 第32巻2号（2020年8月発行）
 - 第32巻3号（2020年12月発行）
 - 第33巻1号（2021年4月発行）

V. 顎関節疾患、特に顎関節症の治療に関する専門医等の各種資格認定事業 （定款第3条4項）

【新規認定】

<専門医および指導医>

2020年指導医、専門医試験を実施。

2020年11月23日（日）東京駅八重洲俱樂部第7会議室

11：00～12：00＝記述試験、13：20～14：30＝口頭試問

指導医3名、専門医2名を新たに認定。

<新認定医>

- ポスタープレゼンテーション審査
実施日：2020年11月15日（土）
形式：web上で実施（zoom）
受審者10名中7名を合格、3名を条件付合格と判定した。
- 講習会・筆記試験を2021年4月4日（日）に実施。
形式：web上で実施（zoom）

講習会内容

顎関節の臨床解剖（解剖・口腔外科）
顎関節の画像診断（歯科放射線科）
DC/TMDに準拠した顎関節症の診察（補綴）
初期診療ガイドライン（補綴：スプリント療法、開口練習）
新認定医制度、専門医制度の説明

筆記試験

受験者23名中20名を合格、2名を条件付合格、1名を不合格と判定。

（合格者はポスタープレゼンテーション審査に申請／合格すれば、本資格取得となる。）

<研修機関>

新規に研修施設4施設を承認。

【更新認定】

2020年12月31日が認定期限となる方々の資格更新審査を実施。

<対象者および結果>

- 専門医および指導医の両資格：
29名中22名が更新申請。内21名の更新を承認。6名を保留。1名が辞退。
- 指導医：2名中2名が更新。
- 専門医：55名中48名が更新申請。47名の更新を承認。7名を保留。1名は更新意思なし。
- 研修機関：62施設中13施設が更新申請。13施設の更新を承認。47施設を保留。
2施設は更新意思なし。（既に2年保留しているためこれ以上の保留は不可
兵庫医科大学歯科口腔外科、大阪医科大学感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室）
- 新認定医：7名中5名が更新申請。5名の更新を承認。
2名は更新意思なし（既に1年保留しているため、これ以上の保留は不可）

VI. 顎関節に関する研究者並びに医療・保健・福祉事業者の教育及び育成事業
(定款第3条6項)

VII. 顎関節疾患に関する調査並びに合同研究 (定款第3条7項)

VIII. 国内外の顎関節治療関連団体との連携及び交流 (定款第3条8項)

IX. 顎関節疾患に関する医療・保健・福祉情報の発信並びに啓発事業 (定款第3条9項)
● 学術大会の運営

X. 研究の奨励及び助成並びに研究業績の表彰 (定款第3条10項)

● 令和2年度覚道健治賞 (最優秀学術奨励賞)
受賞者名：鈴木麻由 (日本大学松戸歯学部顎顔面外科学講座)
受賞論文名：ヒト顎関節滑膜細胞の Monocyte chemotactic protein 産生に対する
フィブロネクチンフラグメントの影響
(日本顎関節学会雑誌 31 巻 1 号)

● 令和2年度学術奨励賞 (優秀賞)
受賞者名：檀上 敦 (佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座)
受賞論文名：アンケート調査による顎関節症の病態分類 (2013年) の利用状況
(日本顎関節学会雑誌 31 巻 1 号)

XI. その他本法人の目的を達成するために必要な事業 (定款第3条11項)